

日本教科内容学会 特別シンポジウム

各教科の「見方・考え方」の意味を教科内容学と教科教育学の視点から問う —プロジェクト研究成果（各科教科内容構成のモデル）を基に—

日程：2020（令和2）年3月20日（金）春分の日、12:30—16:40

会場：東京：聖徳大学1号館：香順メディアホール

開会式と趣旨説明：12:30—13:00（総合司会：小野瀬雅人、開会式：増井三夫、趣旨：松岡隆）

第1部：13:00—13:45 基調講演：1号館：香順メディアホール

角屋重樹「教員養成における教科教育学と教科内容との関連」（日本体育大学教授、前教科教育学会会長）

第2部：13:50—15:00 各科教科内容構成モデルとシラバス提案及び教科内容の観点から捉えた見方・考え方（10教科を2会場で）

A会場：7号館7310（司会：伊藤仁一・椋山女学園大、山木朝彦・鳴門教育大）

数学（松岡隆・鳴門教育大）美術（新井知生・島根大）英語（松宮新吾・追手門学園大）社会（下里俊行・上越教育大）家庭（平田道憲・鈴木明子・広島大）

B会場：7号館7311（司会：原健二・東京学芸大、榊原浩晃・福岡教育大）

理科（佐藤勝幸・胸組虎胤・鳴門教育大）音楽（中島卓郎・信州大）国語（村井万里子・鳴門教育大）技術（菊地章・鳴門教育大）体育（荒木秀夫・徳島大、綿引勝美・鳴門教育大）

第3部：15:10—16:40 シンポジウム：香順メディアホール（司会：西園芳信・聖徳大、浪川幸彦・椋山女学園大）

第2部の提案を基に教科教育学と教科実践者が教科内容を中心に教科の見方・考え方を討議

○教科内容学専門（10教科）

○教科教育学専門（社会：風巻浩・首都大学東京、英語：石濱博之・盛岡大、理科：平田昭雄・東京学芸大）

○教科実践者 図工（川上雪代・文京区窪町小）音楽（金田美奈子・文京区駕籠町小）家庭（木津柴・文京区窪町小）情報教育・プログラミング教育（清水匠・茨城大学附小）数学（村越靖弘・聖徳大附属女子中・高）

■情報交流会：17:45—19:45 聖徳大10号館13階「Café スパンガ」（松戸駅東口前）

■趣旨：日本教科内容学会は、教員養成における教科内容学研究として、各教科の教科内容の体系的性と全教科を俯瞰した体系的性（教科内容学の原理）について究明し、教員養成のための各科教科内容構成のモデルとシラバスを提案しました。（10教科）一方、2020年度から実施される新学習指導要領においては、各教科・領域等に関する「見方・考え方」が提示されました。各教科においては、この「見方・考え方」を働かせて教科の資質・能力を育成するとなっています。この教科の「見方・考え方」は、各学問の基本的理解に通ずるものです。従ってこの「見方・考え方」は、各教科の教科内容や各教科の教育方法とも関連性があり、とりわけ教科内容学会が究明した各教科における教科内容の本質や構造の捉え方と直接関わっています。それゆえ、この「見方・考え方」の意味を教科教育学だけでなく教科内容学の視点からどのように捉えるかはこれからの学校教育において極めて重要です。そこで本学会では、教員養成における各科教科内容構成のモデルとシラバスの提案を基に、「各教科の見方・考え方」の意味を教科内容学（教科専門）と教科教育学（理論と教育実践）の視点から問うことで、今後の教員養成や学校の教育実践の在り方に寄与する特別シンポジウムを企画しました。

■シンポジウム連絡先：西園芳信（日本教科内容学会副会長）ynishi119@gmail.com

■参加方法：直接上記連絡先にメールで申し込む。

■参加費（会員・非会員）：資料代1,000円、情報交流会5,500円（3月7日までに上記メールに申し込む）

■主催：日本教科内容学会 <http://www.jssce.jp/> ■共催：日本学校音楽教育実践学会

■会場：聖徳大学、松戸市岩瀬550、交通：常磐線松戸駅、東口徒歩7分